

八千代高生が学習支援

下結城小 児童「分かりやすい」

八千代町平塚の町立下結城小学校（大澤敦子校長、児童185人）で24日から、本年度の「学びの広場サポートプラン事業」が始まり、県立八千代高校（柴崎規美子校長）の生徒約24人が同校を訪れ、児童たちの学習支援を行った。

同事業は、県教委が算数の基礎的な学力向上を図る

目的で、県内の小学4、5年生を対象に、2009年度から夏休み期間中に行っている。独自に6年生も含めた下結城小学校では、児童や保護者からも「分かりやすい」「子どもたちの自信になる」などと評価も高く、感謝の声が上がっている。

同高校が同事業に参加するのは7年目で、期間は28日までの5日間。同小学校を訪れた同高校の学習ボランティアは各教室に分かれ、4年生から6年生まで計97人の答案用紙を丁寧にチェック。問題を解いていてつまずいたり、普段の勉

強法で聞きたいことなどがあれば、一人一人にアドバイスするなどの学習支援を行った。

同事業に対して同小では「指導する人が多ければ、児童への目配りが強化される。児童にも良い影響が出ている」と感謝した。6年生の榎本航希さん（11）は「難しい問題でも詳しく教えてくれたり、ヒントをくれるので問題を解く意欲が出る」と話した。

一方、学習ボランティアに初めて参加した同高校2年の赤荻虹輝さん（17）は「学校生活では経験できないこと。自分にとってもこの経験は今後に生かせると思う」と前向きに捉えた。

（関富美也）



高校生（左）にアドバイスを受ける児童ら＝八千代町平塚の下結城小学校